

パクパク通信

平成23年4月28日
多摩市立豊ヶ丘小学校
学校長 小林 佳世
栄養教諭 早乙女 理恵
No. 2

あと数日で待ちに待ったゴールデンウィーク突入ですね。あちこち遊びに行くのも楽しいですが、新しい生活から1ヶ月経ち疲れもたまってくる頃です。ゆっくりと過ごす日も設けて、体も心もリフレッシュさせてはいかがでしょう。

3年生が貝取山
でタケノコ掘り
をしました！



先週末の雨のおかげで、26日はお天気にも恵まれ、大小60本ものたけのこを掘ることができ大満足！

筍の字の由来、あく抜きを学習し、米ぬかをさわったりにおいがかいだり・・・ゆでていると「いいにおい〜」「早く食べたい！」何とか時間ぎりぎりに、ゆでたてのたけのこのお刺身を食べることができました。「おいしい！」と、あっという間にペロリ。「たくさんほしい」「大きいのください」と、残りはおうちへお土産。大事そうに、そして満面の笑みで持ち帰りました。



貝取山の立派な竹林。

説明を真剣に聞く3年生



米ぬかであく抜き



おいしい！



こんなに採れ



夏も近づく八十八夜

節分の日の翌日、「立春」を1日目として数え、88日目にあたる日が八十八夜です。毎年5月2日ごろになります。もうすぐ「立夏」をむかえ、気候も夏に変わる時期ですが、遅霜の被害もあり農家の人々が注意するための日として、八十八夜が日本でつくられました。「八十八」は「米」の字を連想させ、苗代づくりや種まきなどの農作業の目安にされました。また末広がりや八が重なることから、この日につんだお茶は縁起が良いとされ、この日にお茶を飲むと長生きするともいわれています。



端午の節句

5月5日は端午の節句ですね。菖蒲の節句ともいい、しょうぶやよもぎを軒につるし、強い香りで邪気を払うとされていました。また菖蒲湯に入ること無病息災を願います。江戸時代に入ってから、身を守るよろいやかぶとを飾り、こいのぼりを立て出世を願う、男の子の節句となりました。端午の節句に食べるものといえば、柏餅やちまきですね。柏の葉は新しい芽が出ないと、古い葉が落ちないことから「子孫繁栄」の意味があります。ちまきはもち団子を茅（ちがや）の葉で包んだものですが、現在は笹の葉がほとんどです。柏にも茅にも、殺菌作用があるので、保存食にもされていました。

